

米子市の農業



平成19年
米子市経済部農林課

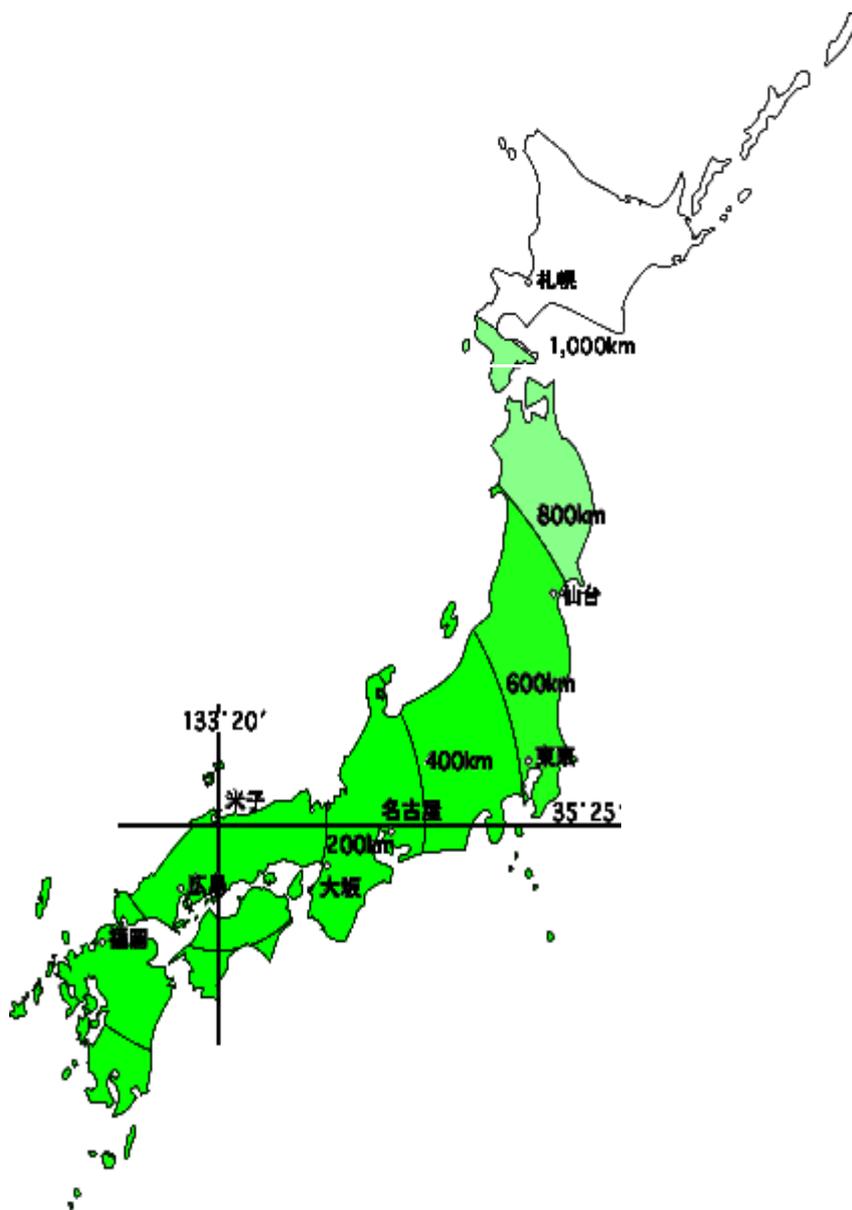
目 次

I	米子市概要	1
1	位置・地勢	1
2	産業	2
3	交通	2
4	気候	2
5	予算関係	3
	(1) 平成19年度農林水産関係歳出予算	3
	(2) 平成19年度一般会計予算	4
II	農業概要	5
1	米子市の農業の現状	5
2	米子市の農業地帯区分	5
3	面積	6
4	農家人口	6
5	農家世帯数	6
6	規模別農家戸数	6
7	農業産出額	7
8	平成17年農業所得	7
9	平成17年個別農産物産出額の順位	8
10	農作物作付延べ面積	8
11	農作物別作付面積	8
12	野菜指定産地	8
13	畜産の状況	9
14	農用地利用計画	9
15	利用権設定の状況	9
16	彦名干拓地	10
17	平成19年度生産調整実施状況	10

第54次鳥取農林水産統計年報の統計数値には、四捨五入する桁数の基準により、計と内訳が一致しない場合があります。

I 米子市概要

1 位置・地勢



『米子市』は、2005年3月31日にそれまでの「米子市」と「淀江町」が合併して新たに誕生した市です。本市は、鳥取県の西部、山陰のほぼ中央に位置し、日本海と島根県中海に面した海、「伯耆富士」と呼ばれる国立公園大山の豊かな自然に恵まれた地域です。

「米子の地名は、稲作の米がよく実った地域でその昔「米生（よなおう）の里」と呼ばれ、またその後「米生の郷（よなおうのごう）」と呼ばれるようになり、この言葉の音がなまって変わったものが、現在の「米子（よなご）」という由来があります。」（佐々木古代文化研究室月報 1960・8・25 発刊資料から）

市の南部は標高100メートル程度の山が点在していますが、その他は傾斜の少ない平坦な地形となっています。

大山や中国山地に源を発する日野川のほか法勝寺川、佐陀川、宇田川などが流れ、日本海に注いでいます。大仙山麓から湧き出した水は、名水として広く認められています。

日野川を中心とする地帯の地質は、主として花崗岩、角閃安山岩及び第3期水成岩ですが、弓浜一帯から日野川河口周辺、そして市の東部は沖積層となっています。

2 産業： 本市の産業別就業人口比率は、第1次産業 4.9%、第2次産業 21.5%、第3次産業 71.6%となっており、商工業を中心とした産業構造となっています。

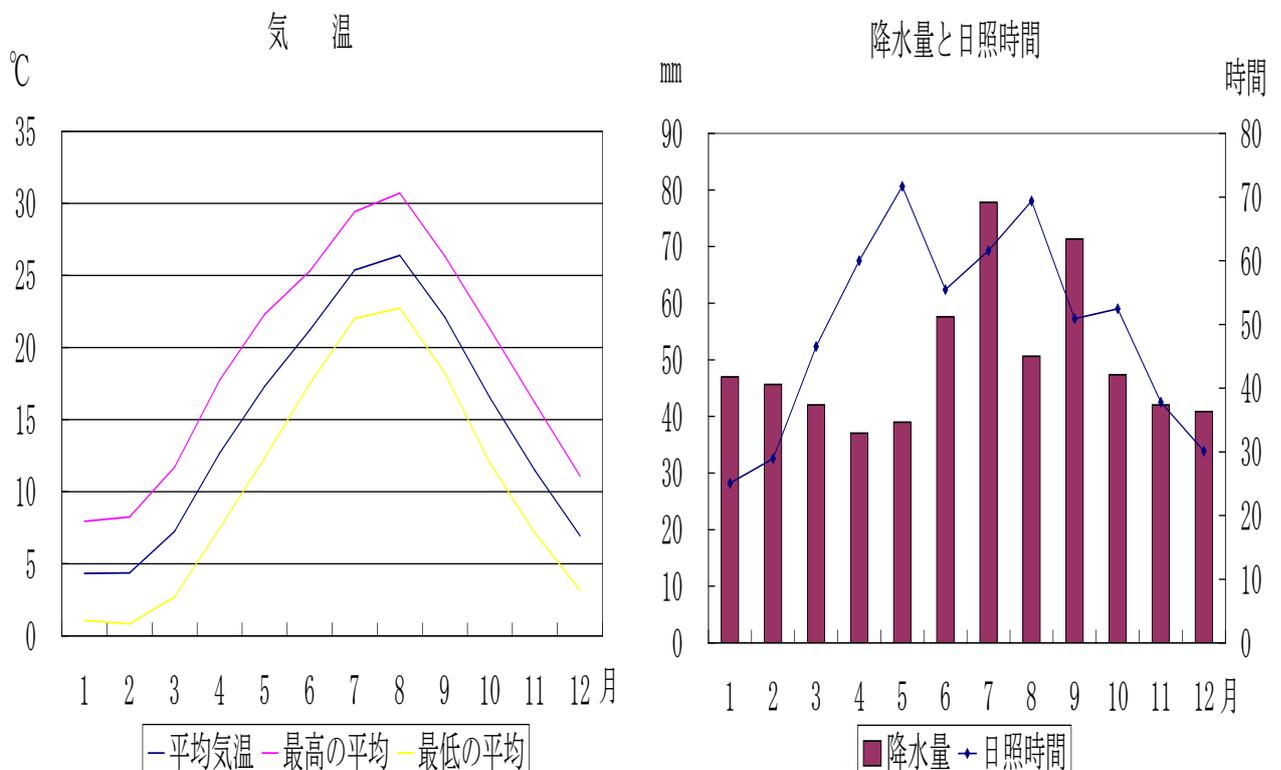
(平成17年国勢調査報告)

3 交通： 本市は、古くから山陰両県の交通の要所として発達してきました。東西に横断するJR山陰本線、国道9号、南北に縦断するJR伯備線、国道181号を幹線に、国道431号、180号、県道米子境港線が市内の動脈となっています。

高速道路では、中国自動車道、山陽自動車道へのアクセスも容易になり、近畿圏・瀬戸内圏がぐんと近くなりました。また、平成13年には淀江大山一穴道間が山陰自動車道で繋がりました。このように高速道路や鉄道の陸路が整備され、さらには空路・海路を有する境港市と隣接する便利なアクセス環境から「山陰の玄関」の顔も持っています。

4 気候： 本市の過去30年間の月旬別平均気温は、最高が8月上旬の26.9℃で、最低が1月下旬の3.7℃です。そして、月旬別平均降水量は、7月上旬が最も多く96.1mmで、最も少ないのが5月上旬の33.1mmです。また、日照時間は、最多が8月上旬の73.9時間、最少が1月中旬の24.0時間となっています。

このように、本市の気候は、月平均気温がほぼ日本の平均気温を示しており、梅雨期の降水量が比較的多いですが、日照時間は太平洋側とほぼ同じであり、温度差の少ない穏やかな気候であると言えます。



(米子測候所 1971~2000年の30年間の平準平年値)

5 予算関係

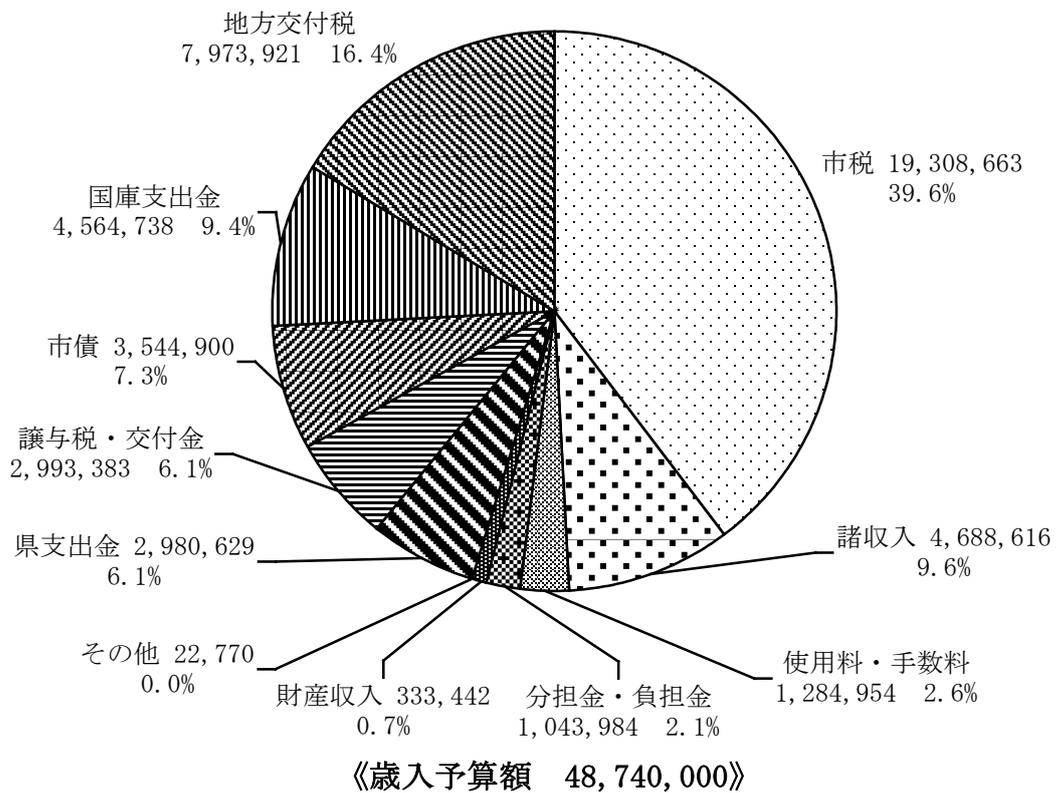
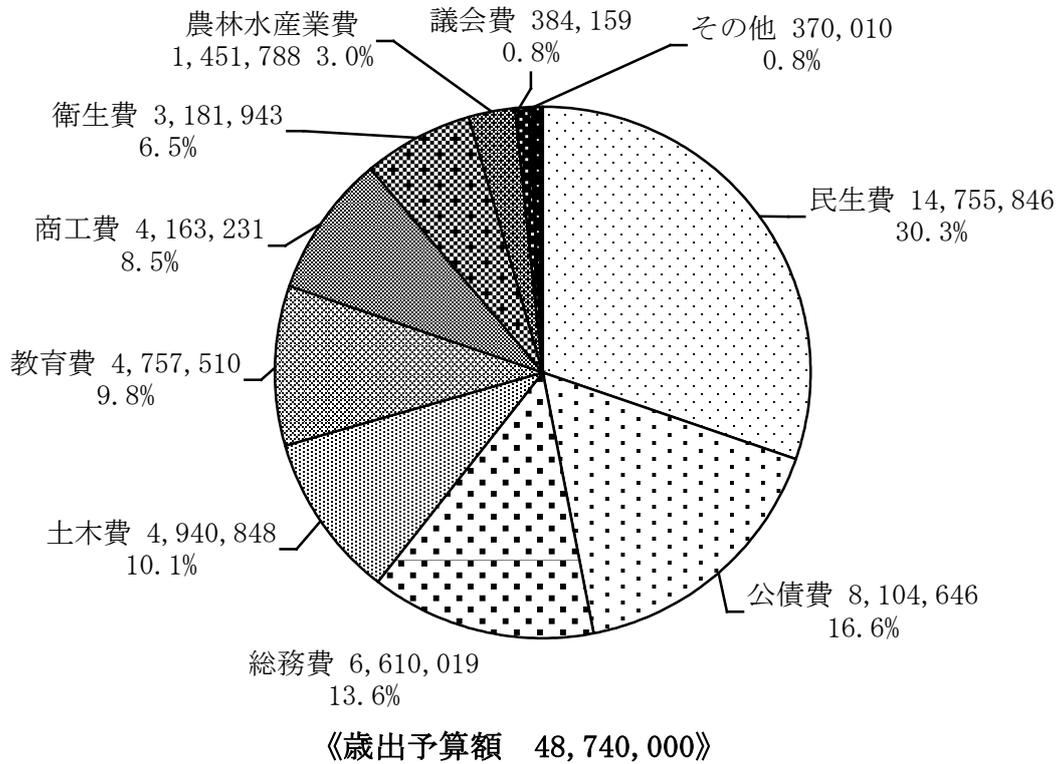
(1) 平成19年度農林水産関係歳出予算

(単位：千円)

	本年度予算	前年度予算
農業委員会費	75,163	72,524
農業総務費	303,237	299,799
農業振興費	60,130	62,772
畜産業費	2,841	1,073
農地費	633,566	820,594
地籍調査事業費	9,597	5,908
林業総務費	15,959	15,368
林業振興費	41,369	62,559
水産業総務費	27,077	26,019
水産業振興費	41,628	23,793
漁港管理費	21,221	18,612
漁港建設費	220,000	133,750
合計	1,451,788	1,542,771

(2) 平成19年度一般会計予算

(単位：千円)



II 農業概要

1 米子市の農業の現状

本市の農業は、土壌の分布状況から、おおまかに、弓浜半島の畑作地帯と南部及び淀江地区の稲作地帯とに分かれます。

弓浜半島の畑作地帯は野菜等の生産地として発達しており、白ねぎ、にんじん、施設園芸、葉たばこ、花き等の生産が盛んに行われています。全体的に、ほ場一区画が小さく、基盤整備が進んでいないため規模拡大が難しく、担い手不足とあいまって、耕作放棄地が増加しています。担い手の確保、耕作放棄地の解消が今後の課題と言えます。

中海干拓事業で農地造成された彦名干拓地では、平成4年から分譲が始まり、農業構造改善事業等による大型機械及び施設等の導入により、経営の近代化がなされています。

南部及び淀江地区の水田地帯では、稲作の単一経営が多く、山沿いに畑地、梨、柿、りんご等の樹園地が拓けています。水田の90%以上は基盤整備を終えています。複合経営があまり発達していないため、第2種兼業農家が多く、認定農業者を中心とした担い手への農地の集積（農作業の受委託、農地の貸し借り）が進んでいます。

2 米子市の農業地帯区分



3 面積

(単位：ha)

総面積	耕地	比率	田	畑			
					普通畑	樹園地	牧草地
13,221	3,080	23.3%	2,060	1,030	948	77	—

(第54次鳥取農林水産統計年報)

4 農家人口（自給的農家を除く）

(単位：人)

総人口	農家人口	比率	総就業人口	農業就業人口	比率	基幹的農業従事者数
149,584	12,048	8.1%	73,422	4,384	6.0%	3,038

(第54次鳥取農林水産統計年報)

5 農家世帯数（自給的農家を除く）

(単位：戸)

総数	農家数	比率	兼業農家数					
			専業農家数	比率	兼業農家数			
					第1種兼業	比率	第2種兼業	比率
52,700	2,643	5.0%	427	16.2%	298	11.3%	1,918	72.6%

(2005年農林業センサス)

6 規模別農家戸数

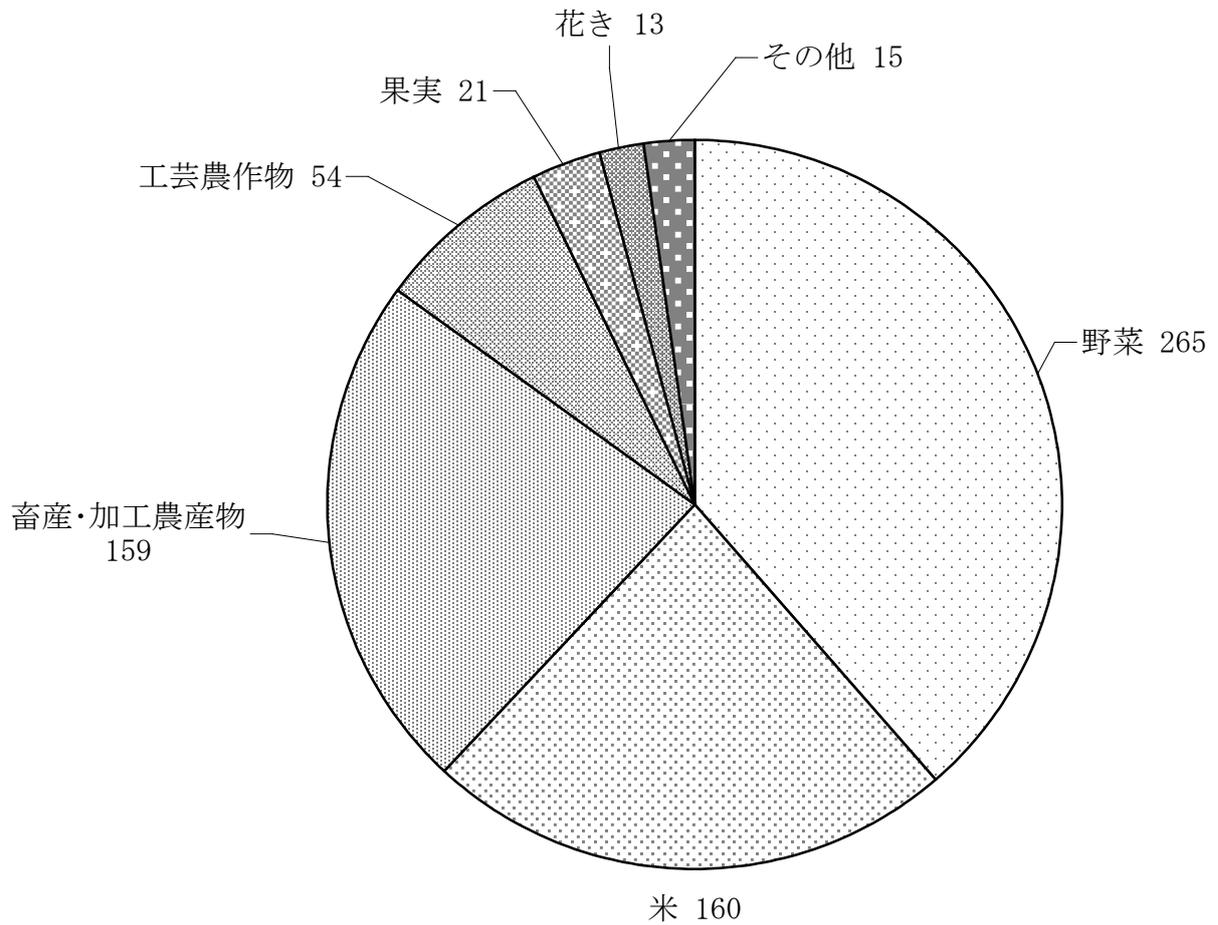
(単位：ha、戸)

規模	例外規定	0.3～0.5	0.5～1.0	1.0～1.5	1.5～2.0	2.0～2.5	2.5～3.0	3.0～5.0	5.0～10.0	10.0以上	自給的農家
戸数	43	671	1,179	473	161	51	22	27	11	5	1,289

(2005年農林業センサス)

7 農業産出額

平成17年農業産出額 687 (単位:千万円)



(第54次鳥取農林水産統計年報)

8 平成17年農業所得

生産農業所得	農家一戸当たり 生産農業所得	耕地10a当たり 生産農業所得
205 千万円	524 千円	67 千円

(第54次鳥取農林水産統計年報)

9 平成 17 年個別農産物産出額の順位

(単位：千万円)

第 1 位		第 2 位		第 3 位		第 4 位		第 5 位	
農産物名	粗生産額								
ねぎ	173	米	160	プロイラー	X	葉たばこ	53	ひな	X

(第 54 次鳥取農林水産統計年報)

10 農作物作付延べ面積(平成 17 年産)

(単位：ha、%)

区分	稲	野菜	豆類	工芸農作物	飼肥料作物	果樹	その他	計
延べ面積	1,290	734	107	105	97	71	76	2,480
割合	52.0	29.6	4.3	4.2	3.9	2.9	3.1	—

※耕地利用率 80.5%

(第 54 次鳥取農林水産統計年報)

11 農作物別作付面積 (平成 17 年産)

(野菜)

ねぎ	383 ha	さといも	6 ha
にんじん	75	いちご	3
だいこん	29	ブロッコリー	7
キャベツ	23	メロン	1
たまねぎ	19	レタス	2
はくさい	15	やまのいも	2
トマト	14	(いも類)	
ほうれんそう	13	かんしょ	35
きゅうり	11	(果樹)	
すいか	7	なし	33
ピーマン	9	かき	22
なす	10	もも	1
ばれいしょ	11	くり	1
らっきょう	2		

(第 54 次鳥取農林水産統計年報)

12 野菜指定産地

品目	冬にんじん	秋冬ねぎ	夏ねぎ	春ねぎ
年	昭和 42 年	昭和 42 年	昭和 60 年	平成 9 年

13 畜産の状況

(単位：戸、頭)

	乳用牛		肉用牛		豚		採卵鶏	
	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	飼養頭数	飼養戸数	成鶏めす飼養羽数
平成14年	6	157	24	141	3	913	2	X
平成15年	6	156	21	165	3	793	1	X
平成16年	7	160	29	210	3	560	1	X
平成17年	7	192	27	174	2	X	1	X
平成18年	7	165	21	161	2	X	1	X

(第54次鳥取農林水産統計年報)

14 農用地利用計画

(単位：ha)

区分	農用地等						山林原野	その他	計
	田	畑	樹園地	採草放牧地	農業用施設用地	計			
農業振興地域の現況地目(A)	2,356	1,527	214	1	19	4,117	2,708	2,440	9,265
農用地区域の用途区分(B)	1,953	798	93	1	19	2,864	12	189	3,065
B/A(%)	82.9	52.3	43.5	100.0	100.0	69.6	-	-	-

(平成19年3月31日現在)

15 利用権設定の状況

(単位：㎡)

地目 \ 期間	1年～2年	3年～5年	6年～9年	10年以上	合計
田	140,643.59	1,651,405.48	324,840.06	290,716.10	2,407,605.23
畑	108,142.00	282,812.90	19,673.00	173,520.95	584,148.85
樹園地	—	548.00	—	3,864.00	4,412.00
合計	248,785.59	1,934,766.38	344,513.06	468,101.05	2,996,166.08

(平成19年3月31日現在)

16 彦名干拓地

概要

昭和 30 年に農林水産省直轄調査地区に採択された中海干拓事業は、昭和 38 年度から干拓特別会計による国営中海土地改良事業として発足し、昭和 43 年 12 月本格的工事が開始されました。その後、農業情勢の変化により、水田から畑への計画変更が行われ、平成 4 年 3 月に中海干拓事業彦名工区が完工し、9 月から売渡が開始されました。

造成された干拓地は、一区画が概ね 30m×100m (30 a) の砂質土壌の畑地で、5~10 m 間隔に暗渠排水が完備されています。また、農業用水池 (44,000 m³) を整備し、自動制御方式のスプリンクラーを完備しています。

(単位 : ha)

工区総面積	農地	共同利用施設用地	他用途用地等
178.3	111.1	5.0	62.2

農地売渡状況 (平成 19 年 12 月 31 日現在)

戸数	面積	売渡率
120 戸	99.6ha	89.6%

作付状況 (平成 19 年)

(単位 : ha)

作物	面積	葉たばこ	にんじん	飼料緑肥	ねぎ	かんしょ	果樹	その他野菜
		6月	33.5	—	8.3	17.7	4.2	2.1
10月	—	26.9	6.6	12.1	4.7	2.1	9.0	

17 平成 19 年度生産調整実施状況

(単位 : ha)

作物別	面積	小計	合計
作物団地	155.321	155.321	155.321
大豆	86.781	394.152	845.479
飼料	20.510		
白ねぎ	37.782		
ブロッコリー	8.692		
その他一般作物	240.387		
調整水田	51.984	451.327	
自己保全管理	259.796		
実績算入	87.115		
加工用米	52.432		

米子市の農業

平成20年3月

編集発行

米子市経済部農林課